平成 29 年度　地域文化学専攻・比較文化学専攻　学生派遣事業　研究成果レポート

拉加本

１．事業実施の目的

本調査の目的は中国青海省海南チベット族自治州貴南県沙溝郷ボンコル村においてロサル（正月）を祝う際、村全体の重要な信仰対象となるアニェユラ及び中国道教から伝来したとされる文昌神を祀る「文昌廟」に初詣する行事、祝詞、供物などの意味を参与観察及び聞き取り調査し、アニェユラの伝説と変容、ボンコル村ないしこの地域におけるアニェユラの役割を明らかにするためのデータを得ることである。

２．　　実施場所

中国青海省海南チベット族自治州貴南県沙溝郷ボンコル村、貴徳県文昌廟、青海省図書館、青海民族大学

３．　　実施期日　　平成　30 年　2 月　1 日（　木　）から　3　月　14　日（　水　）

４．成果報告

●事業の概要

報告者は平成 29 年度地域文化学専攻・比較文化学専攻学生派遣事業の支援を受け、フィールド調査地である中国青海省海南チベット族自治州貴南県沙溝郷ボンコル村に赴いた。チベット・アムド地域の伝統的な正月のロサルを祝う際、貴南県周辺の人々の重要な崇拝対象であるアニェユラ神像が置かれている廟に初詣する行事、祝詞、供物などの意味を参与観察及び聞き取り調査し、ロサル前後の準備と儀式のほか、ボンコル村の歴史、山神信仰などの資料収集の調査を実施した。実施計画及び具体的調査内容は以下の通りである。

2018 年 2 月 2 日から 2 月 20 日にかけてボンコル村のロサルを中心に、ロサルの準備とアニェユラ廟への初詣、剃髪の祝い、80 歳の祝い、結婚式など、ロサルの際行われる様々な伝統的儀式についてフィールド調査を行なった。チベットでは出稼ぎに出た殆どの人がロサルの時期に実家に戻り、家族全員を集まって、賑やかにロサルを過ごす習慣がある。チベットの三大地域のロサルは暦が違うところがあるが、アムドとカムのロサルは中国の春節と同じで、旧暦が使われている。今年のアムドのロサルは西暦の 2 月 16 日であった。ボンコル村では「新しい衣服をロサルに着用し、ご馳走をロサルに食す」といい、ロサルの 2 週間前から、羊肉、ヤク肉、揚げパン、肉マン、ギョウザなど多量なものを自前に作っており、酒、ビール、ジュース、果物、菓子などを町から買って用意しておく。また、子供達にあげるため、お金（お年玉）を両替（100 元札を 5 元と 1 元札に）するなど非常に忙しい。ボンコル村の人々のロサルは、旧暦 12 月 30 日（ないし 31 日）の夜 0 時になると年明けと見なし、伝統的なチベット服を着用し、用意していた供物などを持って家の後方の山に設置

されている台に供えるという初詣をすることから始まる。アニェユラ廟とラプツェ（山神）に近いボンコル村の人々の間では、廟と山神台に一番早く着いて新年の供物を捧げた人は、この一年縁起が良いと信じられている。当村の守護神、つまりアニェユラ神と山神に供物を捧げ終えた後、家で家族全員揃ってロチァ（lo ja）というナツメとバターを新しい茶碗に入れた、新年のミルクティーを飲む。それからロジャ（lo rgyal）というバターを付けた、羊の毛で包んでいる小麦パンでできたチベットの伝統的「年玉」を持ち、喪中にある家庭や長老がいる家を先に訪ねる。ただし、喪中にある人に対しては「ロサルザンー」（明けましておめでとう）などの新年挨拶はタブーである。ロサルの期間は旧暦 1 月 1 日から 15 日までであり、剃髪の祝い、80 歳の祝い、結婚式、弓術の大会などほとんどの伝統的儀式がこの間に行われる。しかし、近年、経済発展と観光化、宗教の衰退、道路の建設、定住化及び都市化政策などの影響により、ロサルには様々な変化が生じている。

今回の調査で報告者は、参与観察と聞き取り調査などの文化人類学の方法を主として用い、カメラやビデオなどでロサルの最初から最後までの様々な儀礼のプロセスを詳細に記録し、視聴覚資料の作成に努めた。今回の調査では、ボンコル村の人々のロサルとそのときの儀礼や結婚式、廟における初詣、尼寺院などにおいて、最近の変化が顕著であることが観察できた。例えば、現地の宗教的職能者により、ロサルでは肉食（肉まんと餃子などを除く）が禁止され、菜食中心となった。また、人々の間ではグループを作って、グループのメンバー達はロサルの際、祝賀用の祭壇（デルカ、写真１）に並ぶ揚げパン、菓子、酒類、ソフトドリンクなどを多量に買わないように制限しており、それに従わない人から罰金まで取ることになっている。今回のボンコル村のロサルではチベットの伝統的「年玉」、すなわち上述したロジャなどを使わず、スーパーマーケットで買って来た手みやげが一般的に使われているのを観察できた。また、テレビ、パソコン、インターネットなど機器や通信が普及し、ロサルの際、各家を訪れる客も年々減少しつつあり、訪問先は親戚と隣家と同じツォワに属する人の家くらいに限られている。

写真 1 祝賀用の祭壇

結婚式の場合、隣家と親戚の人が結婚式を行う家に揃い、式の準備などの手伝いや当日の役割分担などをして結婚式を成功させる。結婚式を行う家はこれをきっかけにツォワの人と友人などを誘って感謝の意を表すため、ご馳走する伝統があった。しかし、近年、ボンコル村の結婚式は村内ないし自分の家で行われず、町のレストランで行われるようになっている。その理由は、その方がゲストからのご祝儀の利益が上がり、自己負担を減らして逆に金儲けができるためであるという。

他に都市化政策により、ボンコル村の人々は農耕地に集まって、村内では隊と隊、村外では他村との間で弓術（写真 2、3）の試合が行われるようになっている。もともと弓術というのはチベットの農耕地域における伝統的活動、つまり娯楽とスポーツの一種であり、最近、農耕地の人のみならず、放牧地域でも行われるようになっている。

写真 2　ボンコル村の弓術会

写真 3　粘土でできた的と当てた矢

アニェユラ廟における初詣に関して報告者は、ロサルの前日（2 月 15 日）に廟に赴いて、管理人であるツルティム氏（僧侶）から聞き取り調査を行い、アニェユラ神の物語、由来、祝詞などを詳細に記述し、ボンコル村の人々がアニェユラ廟で行う年中行事のスケジュールなどを記録することができた。今年は例年とは異なって、廟で儀礼を行う在家者のなかにボンコル村の若者が多くおり、初詣にきた信者の中でもボンコル村の人だけではなく、周辺の村人も沢山やってきた。それはアニェユラ廟までの道路ができてからでしょうといわれる。信者は皆車できており、歩いてくる人や五体投地をしながら初詣にくる信者は一人もいなくなった。アニェユラ廟から 3 キロメートル離れた所に、ボンコル村出身の大学僧リンチンザンポ氏が尼寺（20～30 人）を建てていたが、調査の時間が限られ訪問できなかった。今後の課題としたい。

写真 4　廟の管理人ツルティム氏

このように、ボンコル村の人々のロサルとそこで行われる様々な儀礼などの変化は、想定以上に変わってきており、衰退しつつあるものもあれば、新しい文化を導入し、変容してきていることもある。

2018 年 2 月 21 日から 3 月 3 日にかけて青海省海南チベット族自治州州志室、貴南県県志室、トレー寺などを訪問し、ボンコル村の歴史と仏教前のボン教、アニェユラ神に関する史料、移住前のボンコル村内の宗教施設などに関する文献調査を行った。

2018 年 3 月 4 日から 3 月 14 日にかけて青海省図書館を訪れて青海省の歴史、特に中国の元朝(1271～1368)の時代、青海省におけるモンゴル族の支配、モンゴル族の移住などに関する文献調査を行った。また青海民族大学では地元の研究者らとコミュニケーションをとり、報告者の将来の研究と研究方法に関して貴重なコメントを得た。

●本事業の実施によって得られた成果

予備調査として、青海省海南チベット族自治州貴南県ボンコル村においてロサルの際、行われる様々な儀礼のフィールド調査を行った。今回の予備調査を実施することによって、今まで書かれてなかったボンコル村の歴史に関するデータを収集することができた。特にボンコル村の人々の重要な信仰対象であるアニェユラ神の由来、祝詞、供物など記述することができ、ボンコル村とその周辺地域におけるアニェユラの役割を明らかにするための一部のデータを得た。(6 月 1 日のラトン際は今後の課題)

また、経済発展や移住などにより、遊牧民の文化、例えば競馬などは衰退しつつあり、今まで見られなかった弓術など農耕地域の文化が入り込んできている状態も観察でき、カメラやビデオなど記録することができた。

本調査を実施することにより、報告者の研究の一部となるデータおよび資料を収集することができ、これらを分析・考察し、一部のデータを「国際若手チベット学会」(Fifth

International Seminar of Young Tibetologists（ISYT 2018)）で発表することが決定している。また、一部のデータを例年 11 月に開催される「日本チベット学会」において発表する予定である。この発表を学術論文にまとめて『総研大文化科学研究』（総研大ジャーナル）などの査読付きの雑誌に投稿することを目指し、博士論文の一つの章として活用する予定である。

●本事業について

文化人類学を専攻する大学院生にとって現地における調査研究や国内外の学会発表などの研究活動は非常に重要であり、報告者は初めて平成 29 年度地域文化学専攻・比較文化学専攻学生派遣事業の支援を受けてフィールド調査を行うことができた。この事業は非常に有益な事業であり、今度も継続して欲しい。